

(82号)

中国シルク情勢 (2017年7月)

日 網 連

6月21日、中糸集団(旧中国シルク進出総公司)が雲南省の南部普洱県と4万ヘクタールの桑園投資契約を結んだ。将来、繊維だけではなく医療品、健康食品なども養蚕の目的として視野に入れる方針であり、提携先、新糸路シルク有限公司と海潤繭糸綢公司も参加した。

6月23日、中国の春繭買取り完了直前に機屋を代表して浙江湖州シルクロード董事長の凌蘭芳氏が「中国紡績報」のインタビューで、今年のシルク情勢について以下のとおり述べた。

- ① 今年の繭価格20%値上げの原因は、全国繭生産の減産にある。沿海部での減産が大きく、中西部では農産物の価格について、養蚕農家の満足いく価格ではなかった。今年の秋繭も順調であれば、全国の繭生産量は60万トンを少し下まわるぐらいだろう。生糸と繭を1:8で推計すると生糸生産量は7万トンとなり、その中で約1万トンを真綿に転用すると、現在の中国では製糸能力の半分ぐらいしか達しない。
- ② 他国の生糸生産量は、約10万トンであり、全世界の70%以上は中国で生産している。この20年間に中国繭生産量は55万トンから70万トンまで増加している。多い年では80万トンまでであった。今年1~4月の織物生産は5年ぶりに好調であった。それは生地屋と製品屋との長年調和してきた結果である。
(薄い生地生産が前半に好調であった)
- ③ 生糸の値上げに対してどう認識していくか。機屋がいつも原料と製品との間に挟まれている状況である。
- ④ 織機の無人化を開発して欲しいことや、織工の人手不足などの現況を紹介した。

6月24日、中国シルク協会と浙江省シルク文化会、杭州市シルク協会などが「“一带一路”シルクサミットセミナー」を杭州で開いた。中国政府が進めている“一带一路”シルクロード関係国への文化交流、産業転移などの課題について議論を行った。(右下のスクリーンは新しく開発した両面インクジェットプリントである)



6月の生糸相場は春繭の高騰により毎日少しずつ上がっている。取引所のB類緯糸は9月渡しで42万元/トン(約61ドル/キロ)、経糸は取引していないため、場外価格で45万元/トン(約65ドル/キロ)となり、史上最高値といえる。また、今回の値上げがどこまで続くか専門家たちも非常に予想しにくい状況であり、引き続き注視していく必要がある。

以 上